

発達障害の理解と共生のために

すべての人に理解されることを目指して

発達障害があっても、誇りを持って生きることができますように、本人・家族の方、発達障害を知りたい方、発達障害にかかわる方(支援者)に対して、発達障害に関する信頼のおける情報をわかりやすく提供いたします。

発達障害情報センター ホームページ

<http://www.rehab.go.jp/ddis/index.html>

発達障害の理解のために

平成17年4月より発達障害者支援法に基づいた取り組みがスタートしています。発達障害者支援法では、これまで制度の谷間ににおいてて、必要な支援が届きにくい状態となっていた「発達障害」を「自閉症、アスペルガー症候群その他の汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低下年齢において見liğれるもの」と定義し、支援の対象となりました。

この法律は、「発達障害」の本人が、生まれてから年をとるまで、それぞれのライフステージ（年齢）にあった適切な支援を受けられる体制を整備することとも、この障害が広く国民全体に理解されることを目指しています。

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ**
 - コミュニケーションの障害
 - 対人関係・社会性の障害
 - パターン化した行動、こだわり
- 自閉症**
- 広汎性発達障害**
- アスペルガー症候群**
- 知的な遅れを伴うこともあります**
- 注意欠陥多動性障害 ADHD**
 - 不注意（集中できない）
 - 多動・多弁（じっとしていられない）
 - 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）
- 学習障害 LD**
 - 「読む」「書く」「計算する」等の能力が、全般的な知的発達に比べて極端に苦手

障害者の消費者トラブル

多くの人が思っているほどに自分の上にかかづらくなってしまって、何かの上にかかづらくなってしまうことがあります。何の上から「自分の上にかかづらくなってしまう」と思われるかもしれません。でも、大きな問題のところは、障害者の消費者トラブルです。

どうしてかといふと、障害者の消費者トラブルは、障害者の消費者が、他の消費者と比較して、より多く問題を抱えているからです。

発達障害について

発達障害の原因はまだよくわかっていないませんが、現在では脳機能の障害と考えられています。療育・教育・就労等の支援や環境の調整を適切に行うことで、共に支え合い、社会参加を推進できます。そのため周囲がその特性をよく理解することが必要です。

それぞれの障害の特性

言葉の発達の遅れ

- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

知的な遅れを伴うこともあります

注意欠陥多動性障害 ADHD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしていられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」「書く」「計算する」等の能力が、全般的な知的発達に比べて極端に苦手

